

令和5年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会

第1回幹事会

■ 日時 令和5年8月17日(木) 14:00~16:00

■ 場所 四日市商工会議所 3階大会議室(オンライン併用)

■ 出席者

(有識者)

村山顕人氏、松本幸正氏、有賀隆氏

(交通関係者)

久保田重人氏、小瀬古 恵則氏(随同行)、伊藤眞郷氏、染井 喜久氏(代理)

(商工関係者・大規模権利者・事業展開企業)

伊藤 和泉氏(代理)、木室康弘氏、山下二三夫氏、水谷 貴宣(随同行)、鈴木主計氏、北畠肇氏、

今井 健太(随同行)、吉田健氏、山本 龍太郎氏(代理)、福田賢治氏、片山哲郎氏、白江 真二(随同行)

(行政)

毛利勇氏、辻哲二氏、左橋直也氏(随同行)、館英次氏

(賛助会員)

福田泰之氏、小出優氏

(オブザーバー)

国土交通省都市局街路交通施設課街路交通施設安全対策官 崎谷唯比古氏

国土交通省都市局都市政策課デジタル情報活用推進室専門調査官 坂口正樹氏

国土交通省都市局都市計画調査室都市交通係長 工藤文也氏

国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課課長補佐 中村智和氏

国土交通省中部運輸局交通政策部交通企画課長 勝山祐樹氏

国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官 前葉光司氏

■ 次第

1. 開会

2. 議題

- ・議決事項 第1号 協議会規約の改定について
- ・議決事項 第2号 幹事会会員の変更について
- ・議題 第1号 R5年度の協議会の進め方
- ・議題 第2号 ワーキンググループ(WG)の実施報告
- ・議題 第3号 R5年度スマートシティ実装化支援事業の採択について
- ・議題 第4号 スマート・インフラに係る検討について
- ・議題 第5号 その他報告事項について

3. 閉会

■ 内 容

【1. 開会】

<進行>

それでは冒頭挨拶として館副市長、一言お願い致します。

<館副市長>

皆さんこんにちは。

大変お暑期中、また先週は台風もございまして、本市におきましては、停電とか倒木はございましたけど、大きな災害に至らなかったわけでございますが、皆様方におかれましては何かとお忙しいところ、お集まりいただきまして、またウェブでのご参加をいただきましてありがとうございます。

本スマートリージョン・コア推進協議会でございますが、幹事会として今年初めて開催をさせていただきます。通算では7回目ということになってございます。

令和3年度には実行計画を作りまして、その推進に取り組んでいるところでございますけれども、先日ご案内をさせていただきました国交省のスマートシティ実装化支援事業の採択を受けまして、この実行計画の推進により一層進んでいくものと考えています。

前回は3月に開催させていただいたわけですが、それぞれ各ワーキンググループからいろいろご報告をいただきました。その中で昨年実施しました販わいを創出する社会実験でございますけど、「はじまりのいち」を実施いたしました。あるいは中央通りに設置するカメラ、センシングについてもご紹介をさせていただきました。本日は前回と同様各ワーキンググループから取組状況についてご報告を頂きたいと思っております。まずデータプラットフォームワーキンググループでは今年度の活動方針他、周辺の商店街を中心とする四日市エリアプラットフォームという組織でございますが、その連携についてもご報告をいただきます。モビリティワーキンググループでは昨年と同様に行う自動運転の実証実験の内容についてや、それと同時期に行うMaaS構築の第一歩としてデジタルスタンプラリーについてもご説明いただきます。

また、これらの取り組みを加速するべく、先ほど申しましたようなスマートシティ実装化支援事業の内容につきましても報告させていただきます。その他データを活用して地域課題を解決する、この前、先生からもご提案頂きましたいわゆるアイデアソンというこの取り組みを11月に計画しておりますけれども、これの内容につきましても報告させていただきます。

中央通りの工事をご覧いただいておりますように徐々に進んできております。今年度後半はいよいよ円形デッキを作るために道を開ける、そういった工事も始まっていきます。いよいよ実際の現場も動いてきておりますし、さまざまなハード整備を進めて参ります。引き続き、この会議ではスマートシティの構築に向けまして、ハード整備と合わせて公共事業というのはどう行われていくか、計画を立てて実施していくかというところで、引き続き皆様方に忌憚のないご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

<進行>

ありがとうございました。続きまして本来であれば、ご出席の委員、企業、団体の皆様のご紹介をさせていただきたいところではございますが、時間の関係もございまして、別添の出席者名簿に代えさせていただきます。なお、本日、近畿日本鉄道(株) 鉄道本部名古屋統括部部長の阪田様につきましては欠席のご連絡をいただいております。また、三岐鉄道(株) 自動車部 運行管理課長 伊藤様につきましては、オンラインでのご参加と聞いております。よろしくお願いたします。

【2. 議事】

<進行>

本日の議題は初めに協議会規約の改定や幹事会会員の変更についての議決事項を予定しております。その後は報告事項に移り、今年度のスケジュールについての確認とワーキンググループの実施報告を頂戴したあと、スマートシティ実装化支援事業の採択についてと、スマートインフラに係る検討についてご説明させていただきます。最後にその他報告事項として、今年度開催予定のアイデアソンの企画や、昨年度構築したデータプラットフォームの進捗状況についてご説明をさせていただく予定です。ご質問やご意見を頂戴する時間は議題ごとに適宜設けさせていただきます。

それでは早速ですが、最初の議題を進めさせていただこうと思います。当協議会の規約の改定についての議決事項でございます。資料 1 をご覧ください。本協議会会長を四日市市長森智広から四日市市副市長館英次へ変更すること、また、スマートシティ化に向けた事業の推進を具体化するために財務規程を追加することを理由として、本協議会規約を資料 1 の通り改定することを提案致します。本件に関してご質問がある方についてはお願い致します。よろしければ原案の通り議決事項 第 1 号について本協議会規約第七条第五項の規定に基づき、ご承認をお願いしたいと思います。このことにご異議のある方はいらっしゃいますか。

(会場、ウェブ会議挙手なし)

ご異議がないようですので、原案のとおり議決とさせていただきます。今後はご承認頂いた本日資料の規約に従いまして当協議会を運営いたします。

続きまして別添 03、04 の通り、早稲田大学の有賀先生および中部電力株式会社様から本協議会会長へ参加申込書が提出されましたので、協議会への参画を委嘱致しました。早稲田大学の有賀先生におかれましては本協議会で実行する令和 5 年度スマートシティ実装化支援事業の取り組みなどにおいて、重要な役割を果たしていただけるものと考えております。中部電力様におかれましては、本協議会で実現を目指すエネルギー関係の取り組みなどに対して重要な役割を果たしていただけるものと考えております。つきましては、資料 2 の通り本幹事会会長の指名により両者を幹事会に参画していただくことをご提案いたします。また別添 5 の通り株式会社日建設計からは、会社合併に伴う社名変更の届け出がありました。本件に関してご質問がある方、お願い致します。よろしければ原案の通り議決事項について、本協議会規約第七条第五項の規定に基づき、ご承認をお願いしたいと思います。このことにご異議のある方はいらっしゃいますか。

(会場、ウェブ会議挙手なし)

ご異議等はないようですので、原案の通り議決させていただきます。それでは学識として新たにご参画をいただく早稲田大学有賀先生から一言ご挨拶を頂戴できればと思います。有賀先生、よろしくお願い致します。

<有賀先生>

はい、ただいまご紹介をいただきました早稲田大学理工学術院の有賀隆でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。令和 5 年度の国交省様のスマートシティ実装化支援事業の応募と、それから各種準備につきましては、四日市様並びに推進協議会の皆様にも今後ともご指導それからご助言いただきたく思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。

<進行>

有賀先生、ありがとうございました。なお、現在調整中ですが、今後早稲田大学についても賛助会員として当協議会への参加を予定しております。議決事項については以上となりますので、次から報告事項に移ります。ここからの進行は座長にお願いしたいと思います。村山先生、どうぞよろしくお願い致します。

<村山先生>

はい、承知いたしました。皆様よろしく申し上げます。

次第に基づいて進めたいと思います。

【議題 第1号 R5年度の協議会の進め方】

まず議題 第1号令和5年度のスケジュールについての確認です。詳細のご説明は日建設計総合研究所様よりお願いいたします。よろしく申し上げます。

<日建設計総合研究所>

資料3に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。スマートリージョン・コア推進協議会の幹事会及びワーキングと分科会、それから市役所の取り組み等の総合的なスケジュールについてご説明いただきました。この点について何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。オンラインの皆様もしご発言される場合は挙手のボタンを使っていただくと幸いです。では、この件についてはご質問無いようですのでこれで終了したいと思います。

【議題 第2号 ワーキンググループ(WG)の実施報告】

続きまして議題第2号ワーキンググループの実施報告でございます。前回の幹事会以降に各ワーキンググループで実施された会議の内容を報告していただきます。それぞれのワーキングの代表企業様からご説明いただこうと思います。はじめに、データプラットフォームワーキングの代表である株式会社シー・ティー・ワイ様からお願いいたします。

<シー・ティー・ワイ 山本氏>

資料4-1に基づいてデータプラットフォームWGの報告

<村山先生>

どうもありがとうございました。ご質問や意見交換はこの後に致しますので、次にモビリティワーキングについてご説明をお願いしたいと思います。代表企業であります株式会社マクニカさんからよろしく申し上げます。

<マクニカ 福田氏>

資料4-2に基づいてモビリティWGの報告

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。

2つのワーキングの実施状況についてご説明いただきましたので、ご意見やご質問のある方は挙手の上でご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

<国交省中部運輸局 前葉氏>

資料 4-2 モビリティワーキングで自動運転の実証実験で最終的には、実装を目指しているということですが、自動運転、新たな移動手段導入にあたりまして既存の公共交通、バスやタクシーと棲み分けをしっかりと頂きまして、既存の交通機関と競合のない範囲で検討と、しっかりした事前協議をしていただければと思います。また、デジタルスタンプラリーの参加者の方にも公共交通を利用いただいて参加していただくようなPRをしていただければと思います。以上です。

<マクニカ 福田氏>

ぜひ公共交通をたくさん使ってもらえるといいなと思いつつやっております。

<村山先生>

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

モビリティワーキングの話が出ましたので、まずモビリティワーキングの方から意見交換できればと思いますが、いかがでしょうか。では、私から一点、資料 4-2、P7 からのモビリティ実証実験で特にパーソナルモビリティを使う部分についてご質問なのですが、最後の P11 の地図を見ると、⑨⑩⑪はかなり遠方にスタンプラリーの目的地があって、そこまで色々な乗り物で行ってもらうことが目的だということは理解できるのですが、キックボードが大丈夫か心配です。というのも東京でかなりキックボードが普及してきて、道路インフラがちょっと悪いとすぐ転んでしまったりとかで、慣れていないと事故になる可能性もあります。それはもちろんそういうものなのかもしれませんが、社会実験でやる場合にあまりにも事故が多発してしまうとかなり評判が悪くなったり、本当にこれ実施していいのかっていう否定的な意見が出かねないので、あまり慎重になりすぎるのもよくないなと思いつつも、安全性の確保というのが必要なと思うんですが、いかがでしょうか。

<マクニカ>

おっしゃる通りです。まだ確定しておりませんので、公共交通さんと場所や安全性も含めて、今年キックボードを導入してやってみるかとかという話を進めています。

<村山先生>

はい、あとは導入する台数にもよりますが、駐輪スペースやインフラ側の問題もあるかもしれないので、ぜひご検討いただければと思います。

<マクニカ>

はい。

<館副市長>

JR 四日市駅から三滝通りの間は路面状態が悪く、今後改良予定ではあるが、今年度の実証実験においてどのモビリティを使用するのかモビリティによっては、注意が必要です。

<近鉄百貨店 木室氏>

⑨⑩⑪の中で公共交通がなかなかないのが⑨の稲葉翁記念公園ですね。そちらに行く時に自転車とか先ほどのキックボードとか使われる可能性があって、こちらはどういうルートで行けるか、事前に調整して、諏訪新道の延長線上ですが、何かできることがあれば提案を出していただけるといいかなと。

<マクニカ>

はい、そうですね。

<村山先生>

どうもありがとうございます。その辺まだ実現に向けて少し調整する事項があるということですね。他にモビリティワーキングについていかがでしょうか。オンラインの方も、もしご発言ありましたら拳手願います。

では、ひとまず今度はデータプラットフォームワーキングの方の意見交換ができればと思いますが、いかがでしょうか。では私の方からまた質問させていただきたいと思います。

具体的に四日市エリアプラットフォームと連携して具体的に進めていらっしゃるの、とても楽しみにしております。自分はエリアプラットフォームの方にも少し関わっておりまして、向こうから見るといろんな人流のデータとか、様々なデータをうまく使いながら効率よく活性化の施策をしたいという意見がありましたので、ぜひ連携したいなと思っております。今日の報告をお聞きすると、まずはそのイベントの企画をする段階で活用できそうなデータを特定してうまく何か解析をして活用するというお考えですよ。その時に具体的にどんなデータの利用を想定されているのかというのが質問の一つ目です。

もう一つはイベントの時に普段よりもお客さんがいらっしゃるわけで、その時に何かデータ収集されるのかどうかの2点についてお伺いしたいです。

<CTY 山本氏>

ありがとうございます。まず、どのようなデータを考えているかですが、大四日市まつりがあった際に我々の方で一回商店街の中のデータをとって分析をしており、それを見ながらどうしようかという話をさせていただいております。大四日市まつりの2日間集中的にやっているイベントの中で、どれぐらいの商店街の人の動きが出ているかをイベントがある/なしで比較をして分析をかけているところです。急ぎでやったので、精度の高い人流が取れているのかという懸念もあるのですが、一回それを参考にしながら企画を考えてみたいと言っていたので、分析の結果を見てどうするかを検討しようかと思っています。ただ、エリアプラットフォーム側ではもう少し具体的な個人データを見たいのかなというところが意見交換の中で出てきたので、もう少し吸い上げた上でヒアリングを深くやっていかないといけないかなと思います。

2つ目ですが、我々は先ほどマクニカさんがご案内いただいたMAPを持っていますので、スポットを見た時、簡単にこれぐらいのアクセスがあるよとか、どれぐらいどういうところに人気があるのか。そういったところで、どこのスポットが人気あるのかを見ようかなというところで話をさせていただいております。

<村山先生>

それは人流などではなくて、ホームページのコンテンツを作って、そこにみなさんがリアルな現場に身を置きながら、どういうコンテンツを見ているかを解析するということですね。

<CTY 山本氏>

そうです。今回のこういったデータの取り方がもうちょっと上手くいけるようであれば、もう一度取り組みをやってみて、そういった人の動きが取れているのかを見たいと思っていますけれども、大四日市まつりの整理がまだ終わってないので、それをもう少し精度高く確認した上で対策と向き合っていこうと思っています。

<村山先生>

ありがとうございました。1点目についてはこちら側から提供できる既存のデータと、商業者の皆さんが求めている、多分マーケティングに使えるような個人情報と、ギャップがあるのですね。それがわかることも多分社会実験の検証すべき事項の一つだと思うので、是非フレキシブルに意見交換を続けて、今年度対応できなくても今後何かできるようになればいいなと思いました。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

<商工会議所 山下氏>

難しいことなのかもわかりませんが、外国人の方が四日市市にも今後非常に増えていくと思います。外国人の方のニーズといいますか、商店街にも外国人の方がやっている店はたくさんあると思いますので、こういった外国人の方のお店は、分析の対象に入っているのか、そういった所へ他の外国人の方が行くのか、それを測れるかを知りたいと思います。

<CTY 山本氏>

ありがとうございます。山下さんがおっしゃっていただいた外国人の方は、どちらかという人流で見たりカメラで分析をするというよりは、個人の方で見ていくデータなのかなと思っています。ですので個人のデータをとってそれを分析するというのは、正直今年度は難しいかなと思ってますが、商店街の方々が思っているものと近いと思いますので、もう少し議論を深めていって、どういうデータを取っていくのかというところから考えなきゃいけないというアドバイスとして受けさせていただいて、今後の中で検討して参りたいと思います。

<商工会議所 山下氏>

外国人の特定は難しいと思うのですが、入る店は分かると思うので、例えば外国人はこういう店に入ることが多い、といったようなことを分析するようなことも視野に入れてほしいなと思います。よろしく願います。

<村山先生>

そうですね、国際化や多文化共生の観点からも重要だと思います。リアル空間では難しいことでも、ウェブコンテンツは比較的自動翻訳とかも活用しながらいろんなことができますし、言語の問題に関してもいろいろそこからヒントがあるのかなと思います。

他にいかがでしょうか。他に無いようでしたら、次の議題に移りたいと思います。

【議題 第3号 R5年度スマートシティ実装化支援事業の採択について】

次は議題の第3号、令和5年度スマートシティ実装化支援事業の採択についてです。これは資料5に基づいて日建設計総合研究所さんご説明をお願いしたいと思います。

<日建設計総合研究所>

資料5に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。

今の採択されたこの事業に関するご意見質問がある方はぜひお願いします。

私から、細かい点ですが、最後の4番目の事業プランニングマネジメントツールの構築のところ、左側にCO₂排出量と書いてあるのですが、これは何からのCO₂排出でしょうか

<日建設計総合研究所>

すみません、これは樹木によるCO₂吸収量のことです。

<村山先生>

分かりました。

都市計画系の専門なので思うのですが、沿道の建物に関する情報は今のところは含めないとのこと、つまり中央通りのインフラが整備されると沿道の土地利用がどんどん変わっていく可能性があり、また開発ポ

テンシャルが高くなって変わっていく中で、どんな用途とか形の建物が実際出来ているのかその時に、デザインのガイドラインが全くないわけですが、そういうものが必要かどうかというのが都市計画上は気になってくるという意味では、インフラの地下の埋設ももちろん大事ですが、沿道の建物についてもせっかく Plateau を使うので何かできるといいのかなと思いました。この企画の段階ではそこまでは行われていないのですか。

<日建設計総合研究所>

Plateau を活用するメニューということで、あまり他地区がやってないことを先導的にやっていこうという意味合いもあってこのような内容となっていますけれども、今村山先生がおっしゃるように沿道の建物が建て替わったら Plateau 上でも入れ替えていく、その上で都市景観的にどう変わっていくかといった使い方が当然出てくると思いますので、それは Plateau の今後のメンテナンスの方向性の中でやっていくべき内容かなと思っております。

<村山先生>

はい。この取り組みの発展形であるいは同時並行的にできることもかもしれませんね。他にいかがでしょうか？

この事業と元々持っていたワーキングとの関係というのは、資料 5 の 1 ページ目の左下にあるように、概ねこの①の事業がシー・ティー・ワイさんを中心とするデータプラットフォームワーキングで、②の四日市版 MaaS についてはモビリティワーキングで、この事業の推進体制としては今の推進協議会とワーキングに上手く対応しているというふうに考えて宜しいんですか。さらに、有賀先生早稲田大学が③に入ってくるということでしょうか。体制について、もし何かコメントありましたらお願い致します。

<市街地整備課 戸本課長>

基本的には、ワーキングの中でいろいろ報告しながら、先ほど村山先生が仰っていたように事業を進めていくことを想定しております。

<村山先生>

はい。ワーキングもどんどん積極的に動いてうまく連携しながら進めていくのが良いかなと思います。他にないようでしたら次の議題に移りたいと思います。

【議題 第4号 スマートインフラに係る検討について】

次の議題はスマートインフラに関わる検討についてで、中央通り再編の先行整備区間においてスマートインフラの導入が控えておりますが、その具体的な発注に向けて市による検討が進められていますので、その検討状況について日建設計総合研究所様よりご説明をしていただきます。

<日建設計総合研究所>

資料 6 に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。それでは、今ご説明がありましたスマートインフラに係る検討についてご意見ご質問がある方はお願い致します。

これは今年度進めていくということで、楽しみにしたいと思います。

【議題 第5号 その他報告事項について】

それでは次の議題に進みます。議題5号 その他報告事項についてですが、データプラットフォームの構築状況およびデータ利活用に関するアイデアソンの企画について報告があるということですので、これは四日市市様からお願いいたします。

<ICT 戦略課 林課長>

資料 7-1、2 に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。以上のデータプラットフォームとアイデアソンについて、ご質問ご意見がある方はご発言お願いいたします。

1点私から、資料 7-1 データプラットフォームについて、図の緑色の部分が完成したということですが、これは仕組みができたということで、中身はまだ無いのですね。これから下のデータ提供インフラとの繋ぎのAPIのところを開発ということなのですが、将来的にはここに書いてあるデータの多くが掲載されることを目指す上で優先的に取り組む事項は何でしょうか。アイデアソンや他のワーキングで議論されていることから、市民にとって優先度の高いものを選んでいくという考え方もありそうですし、実際のデータの取得可能性から、優先度を決めていくという考え方もあるかと思えます。

<ICT 戦略課 林課長>

行政の持っているデータは、すでに一部ホームページのオープンデータで閲覧できますが、さらにまた公開できるデータがないかということについては、昨年度棚卸をしたのに加え、アイデアソン等で意見やニーズを募りながら進めていきたいと考えております。

<村山先生>

ありがとうございました。本日の議題は以上となりますが、全体を通してのご質問やご意見はございますか。特に無いようですので、それでは、進行を事務局へお返しします。議事進行にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

<進行>

村山先生ありがとうございました。それではもしよろしければ全体を通して改めて松本先生からコメントを頂けますでしょうか？

<松本先生>

全体としましては、1つは色々な行事、イベント等々が実施されますのでそれを振り返られるようにしっかりとデータをとってもらいたいなと思っております。例えばデジタルスタンプラリーの実証実験でしっかりとデータをとっていただきながら、どういった効果があったかどうかを後から検証できるようにしてもらいたいと思っております。データプラットフォームの取り組みに関しても一緒です。

それからもう1点気になったのは、この協議会に参加いただいている方々に関してはこれらの情報は十分に伝わっておりまして、こんなことがやられるんだ、あるいはこんなふうに変わっていくんだというのがわかるのですが、一般の市民の方々に対して、どういうふうに周知していくのかなというところが今ひとつ見えてませんので、やはり市民の方々にもワクワク感を持ってもらいたいと思います。まず行事等々に対しての周知、広報、さらには今こんなふうに進んでいって皆さんの生活がこんなふうに変わっていきますよというような積極的なPRもやっていく必要があるかなと思っております。そういったことを踏まえながらこれからも進めてもらえればと思っております。以上でございます。

<進行>

ありがとうございました。

では全体を通して有賀先生からコメントを頂けないでしょうか？

<有賀先生>

はい、先ほど資料5でご説明をいただいた実装化支援事業について、またほかのワーキングのことについてですが、1つはこの3カ年で事業を進めていく実装化支援事業については、①から④の活性化ツールの構築、それからMaaaSの話、コミュニケーションツールの構築、プランニングマネジメントのツールの構築、4つタスクが明示されておりますけれども、いずれもやはり相互に関連するものが多いと思います。とりわけ3ヶ年で実施していくことと、それからこのスマートリージョン・コア推進協議会というのは、もっと大きな枠組みあるいはもう少し長期的な時間軸の中でそれぞれワーキングが作られて、今もうすでに先行的に進んでいっちゃるということもあるので、そこをどう上手く相乗効果を出すように連携できるかは大事な点かなと思いました。その上でやはりこの3ヶ年間の実装化支援事業について、やはりデジタル時空間ということが1つのキーワードになっております。

それは四日市の都心部のみならず市街地の成長を新しいITを使いながら促していく、新しい社会的な方法論、社会的な仕組みを作っていくということだと思んですが、その時にデジタル時空間というのは単にデジタルツインという話だけではなくて、やはり一つは利用者の一人一人の行動に基づくもの、それから都市や地域の大きなスケールと同時に両方が使えるという特徴を活かして情報化のツールを使いながら、また過去現在未来という時間軸を超えてプロジェクトマネジメントをしたり、あるいはそれを促進するようなプログラムを作ったりということができると考えています。

そのためには既存の今までなかなかデジタルが汎用化されるまでは捉えることが難しかったような市街地の中の小さなスケール、例えば1個1個の建物かもしれないし、1つ1つの路地かもしれない、1つ1つの通りかもしれないけれども、そういうスケールのストックの価値をもう一度再活性化する、または再価値化していくようなデータベースを作っていく、あるいはきめ細かなスケールを元にしたまちづくりのプログラムを組み立てていく必要があるのではないかと思います。

それと先ほどのワーキングの報告でもお話が若干出ていましたが、都市や地域全体として到達したい環境性能であるとか、あるいは防災であるとか、あるいはライフサイクルコストであるとか、そういうような都市全体の大きなスケールで到達しなきゃいけないような目標像を、関連付けながら日々日常のまちづくり、あるいは都市計画の誘導だとか、あるいはファシリテートをプログラムしていくことで、デジタル上でシナリオシミュレーションするだけじゃなくて、リアルな都市空間側のまさにエリアプラットフォームがすでに動いていたり、あるいはそれ以外にも関係者の皆さん方の組織や、あるいは担い手の仕組みというのがあるのでそういうところと繋げながら、リアルな都市空間側にそれをフィードバックしていけるような仕組みを構築していくことが、これが例えばさきほどの①から④のさまざまなコミュニケーションツールの部分だったり、あるいはプランニングマネジメントのツールだったり、両方に横串で関わってくることだと思います。

そういうようなことを少し想定しながら3ヶ年で成果を上げていくことが大事かなと思っています。中央通りの沿道に限らず諏訪栄ですとか、あるいは元町ですとか、今回の赤枠で囲まれた事業の対象範囲の市街地というのは中央通りの沿道だけではないので、それに加えて既成市街地側エリアに広げていくのが、事業としては入ってくると思いますが、その時に三次元のデータベースを作っていく、またはその設計が大事かなと思っています。その時に当然ながら公共空間だけではなくて、民間、あるいは個人、所有者さん、あ

るいは商店街であれば経営者さん、そのような方々とも連携をしていく必要があるわけですが、ここについては当然ながら、きちんと信頼関係を作っていないといけないと思っていますので、そういう意味では地域の方々の所有者さん関係権利者さんも含めた共同の仕組みを同時に作っていかなくはいけません。

そのようなことを踏まえて資料 5 で先ほど示されましたけれども、ソフトインフラと書かれていますが、サイバー空間とリアルな都市空間との都市スケールから生活者スケール、複数のスケールを横断するような意味でのまちづくりプログラムや都市計画の社会的な仕組み制度を作り、それを推進していくことが大きな意味での枠組みと目標になるのではないかと考えています。そういう意味では今日ご説明があったこの推進協議会の他の WG で進めていらっしゃる計画と、随分関連するところが当然ながら多くあるので、ぜひそういう意味ではこの幹事会も含めて情報共有させていただきながら進めてまいりたいと思います。

以上です。

<進行>

ありがとうございました。最後に村山先生から全体を通してコメントを頂けますでしょうか？

<村山先生>

はい、ありがとうございます。個別の事についてはその時々でお話ししてきましたので全体のコメントに致しますけれども、このスマートシティの取り組みというのは、とにかく技術とかデータが先行して、すなわち技術があってデータがあるのだけど、それを使って何をやるのかというところで、それがどう市民や事業者や行政の役に立つのかというところの議論を忘れがちというか、目の前の技術的なことに一生懸命で本来の目的を見失ってしまうとあらぬ方向に行ってしまうので、引き続き、これを何の為にやっていて、これがどういろんな主体にメリットを与えるのか、ということをぜひ意識して進めていただけたらいいと思います。すでにエリアプラットフォームとの連携とか、秋の社会実験に向けて最終的にはいろんなモビリティユーザーとインタラクションしているわけなので、是非その方向でお願いしたいと思いました。それから、いろんな事業が同時に動いているのでなかなか大変だと思うのですが、それがわかりやすく市民に何をやっているのかが分かるように情報提供をしていくことも大事だと思いますので、それは秋の社会実験などを目指して、それに関わる情報提供は是非しっかりやっていただきたいと思います。以上です。

【3. 閉会】

<進行>

ありがとうございました。以上をもちまして、令和 5 年度第一回幹事会を閉会させていただきます。次回の幹事会についてはまた改めて事務局よりご案内させていただきます。なお、連絡先が変更される場合には、ご一報いただきたく何卒よろしく申し上げます。本日は忌憚のないご意見をいただき、また進行にご協力いただきありがとうございました。